

授業づくり

〇個の違いへの対応

○書字について困り感を持っている児童への指導

【なぜこの支援が有効になるのか】

正しい鉛筆の持ち方をさせるには、指先の力の入れ加減や、柔軟に動く手首にすることが必要である。それには器用に動かせることができる手をつくる必要がある。

- トレーニング①②は指の筋肉を使うことで鍛えることができる。
- ③は鉛筆を持った時の力の入れ加減を調整することができる。
- ④は親指と人差し指の間に輪（天使の輪）ができ、空間ができるため、丁度よい強さで書くことができる。目や貝などの線が重ならないこと、空間がつぶれないように書くことができる。

〈支援・指導の実践例

①親指でっぱり A児

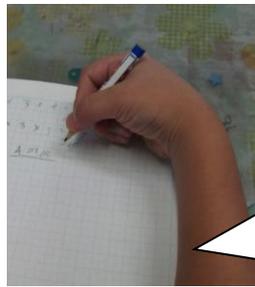
親指を人差し指にあてる持ち方
必要以上の力で書く傾向がある



字が濃い
とめ、はね、
はらいが雑
手が疲れる

②手首曲げ B児

手首を過度に曲げている持ち方



力の入らない文字
文字のとめ、はね、
はらいが雑
下の行へいくと手首
が「くの字」の曲がる
マスからはみ出る

●指先や手首を柔軟に動かすことができるようになるためのトレーニング

※①②③は参考資料 書字指導アラカルトより抜粋

神奈川県立保健福祉大学作業療法士 笹田 哲中央法規出版株式会社

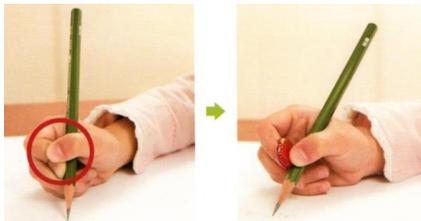
①こままわし



②まめつかみ



③おはじきはさみ



④消しゴムを使って鉛筆を持つ



〈成果〉 マスの中に収まる文字が書けるようになった。

